

このまちの100年

「大津」

大津は飛鳥時代の一時期には近江大津宮も置かれた歴史ある地。地名は『大きな港』の意味で、日本海および琵琶湖沿岸からの物資を琵琶湖を經由し、京都・大阪方面へ運ぶ際の主要港として発展しました。



大正15年頃

東海道本線のルート変更で誕生した三代目大津駅



昭和5年頃

昭和3年に竣工した大津市役所。昭和42年に現在地へ移転した



昭和10年頃

京阪京津線の電車が走る浜大津駅付近。大津港では、太湖汽船らの航路と連絡していた



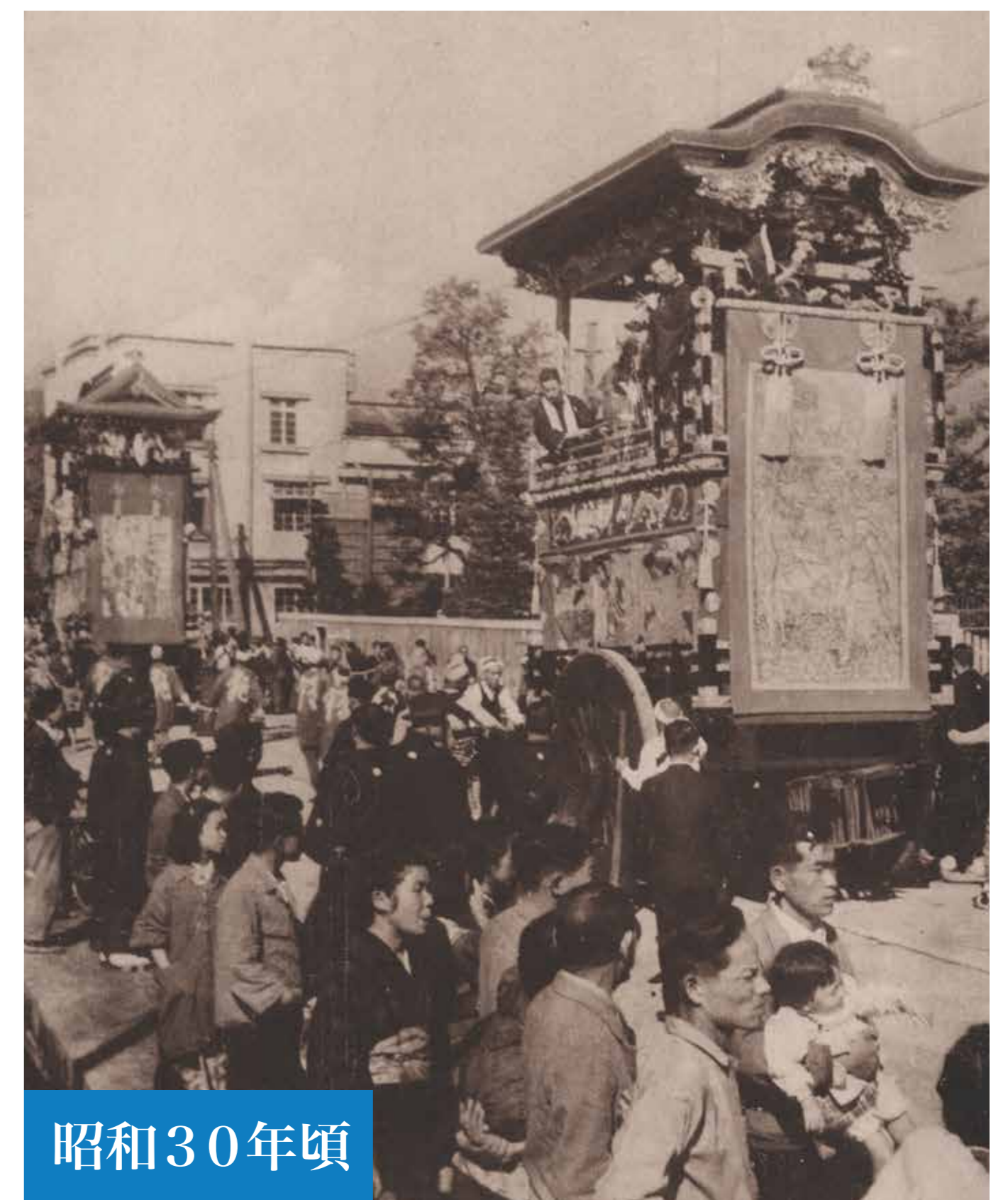
昭和10年頃

琵琶湖から見た大津市内。正面に大津市役所が見える



昭和10年頃

琵琶湖をクルーズする太湖汽船のみどり丸などで、乗船客を楽しませていた太湖バンド



昭和30年頃

湖国三大祭のひとつ、大津祭。現在は13基の曳山が市内を巡行する

上空からみた大津エリア



昭和21年



昭和43年



令和2年

 : 現在地
 : 滋賀師範学校 女子部  : 滋賀県庁  : 大津駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロマチ